出張！ふれあいトーク質疑応答

開催日：2026年8月23日

団体名：日本車いすダンススポーツ連盟新潟県支部

| No. | 質問要旨 | 回答 |
|---|---|---|
| 4-1 | 多様な人が違和感を共有しながらもまちづくりに対してできることから始めてみようと意見を出し合った。結果、障がい分野だけでなく、高齢者×（かける）子供×障がい者、子供×移住者×障がい者のような掛け算をしたら、もっと可能性が広がるのではないだろうか。 | 【市長】<br>先日、市内で開催された「インクルーシブ演奏交流会」がよい例。市内3中学校の吹奏楽部の演奏を、福祉施設の皆さんが聴きに来ました。施設で作っている製品をじゃんけん大会の景品にしたり、お互いを理解する機会になったと思います。市の「バリアフリーフェス」などのイベントも、お互いがプラスになるようなものにしていきたいです。 |
| 4-2 | 「地域の茶の間」の高齢化が進み、やめる人が出てきている。高齢の手前の中高年の人たちが活躍できる場所がほしい。 | 【健康福祉部長】<br>昨年度から「シニアNEXT人材バンク」を始めており、アクティブシニアに積極的に動いてもらうため、就労やボランティアとのマッチングをしています。ぜひご利用ください。<br>【担当課後日補足】<br>「シニアNEXT人材バンク」とは、おおむね60歳以上の市民が、福祉施設や地域で軽い仕事やボランティア活動を行える場を提供し、高齢者の社会参加を促進と、地域の人手不足を解消することを目指しています。 |
| 4-3 | 80～90代の元気な高齢者が、今まで自分が培ってきた経験や技術を30～40代のミドル層に教えられるようなワークショップがあるとよい。また、この団体以外の10～40代の若い人と交流が持てるような機会があるとよい。 | 【市長】<br>世代間交流だと、今の自治会やまちづくり協議会が該当するかと思います。年配者が持つ知恵と、若者の行動力が合わされば、地域はよくなります。さまざまな活動をやっているので、ぜひ一度参加してもらいたいし、市でも誘導していければと思います。 |
| 4-4 | 各町内に集会場があるが、割と空いていて、もっと有効的に使えたらと思う。市で声を掛けあって、若い人たちとも交流できるとよい。 | 【市長】<br>若い人たちが地域に興味を持つようなきっかけを作っていきたいと思います。<br>【担当課後日補足】<br>各町内の集会所は各自治会の所有となっているため、集会所を活用したい場合は、地元の自治会へご相談ください。 |
| 4-5 | 自治会やまちづくり協議会、地域の茶の間もそうだが、若い人には縁遠いというか、何をしているか分からないから入りにくいという課題があるのでは。 | 【市長】<br>そのような課題もあり、まちづくり協議会に関わっている方々（若い方も含めて）を集めて、若い人たちが関わりやすくなるためのアイデアを、行政と一緒に考えてもらう取り組みを11月以降に予定しています。その中ですぐに実行できるアイデアから試しながら、多くの人から入ってもらえるよう動いていきます。<br>【担当課後日補足】<br>まちづくり協議会のほか、自治会や高齢者福祉などさまざまな分野で、行政と民間から構成するチームをつくり、官民一体の政策づくりを推進します。 |
| 4-6 | 市で運動会は開催しているのか。 | 【市長】<br>現在は開催していません。合併前の吉田町では開催していましたが、旧燕市ではなかったと思います。 |

出張！ふれあいトーク質疑応答

開催日：2026年8月23日

団体名：日本車いすダンススポーツ連盟新潟県支部

| No. | 質問要旨 | 回答 |
|---|---|---|
| 4-7 | 空き家対策はどんなものがあるか。 | 【市長】<br>「空き地・空き家バンク」でのマッチングや、解体やリノベーションして使いたい場合の補助、相談会などを実施し、空き家にならないよう、また放置されないよう取り組んでいます。<br>【担当課後日補足】<br>空き家が発生しにくい状態をつくるため、エリアで価値を高める「中心市街地再生モデル事業」にも取り組んでいます。今後も引き続き、使えない空き家を壊す動きと、使える空き家を利活用していく両方の動きを推進していきます。 |
| 4-8 | 空き家を個人がリノベーションして地域の茶の間みたいにするのは大変か。 | 【市長】<br>元々地域のつながりがないと、空き家を使って地域の茶の間にするのは難しいのではないでしょうか。 |
| 4-9 | 例えば、空き家をリノベーションした地域の茶の間をシニア世代の人を使って市で運営するのはどうか。 | 【市長】<br>地域の茶の間は地域の人が来るので、行政がやるよりも地域の団体が運営する方が持続可能です。 |
| 4-10 | 健常者に車いすのことを理解してもらうには、実際に乗って体験して知ってもらうことが大事。1998年の長野パラリンピック開催時に、車いすの選手と一緒に現地へ行ったが、当時は障がいへの理解が進んでいなかった。今は市でさまざまな福祉の取り組みをしてくれてありがたい。引き続きお願いしたい。 | 【市長】<br>これからもしっかりと取り組んでいきます。<br>【担当課後日補足】<br>今年度のバリアフリーフェスでは、日本車いすダンススポーツ連盟新潟県支部と連携し、車いすダンスの紹介・体験などを行うブースを設置することにしました。 |
| 4-11 | パラスポーツを通して、この団体で活動している子どもたちは、障がいのある人とない人で一緒にまちづくりや仲間づくりを考えている。多様な人が連携しながら一つのものを作っていくポイントやアドバイスをいただきたい。 | 【市長】<br>先ほどのインクルーシブ演奏交流会のような場所を意図的に作っていくことが大事。まずは障がいに興味のない人にも来てもらえるよう、取り組んでいきます。<br>【健康福祉部長】<br>つばめバリアフリーフェスは、毎年12月3日から9日までの「障がい者週間」に合わせて開催しており、最終日の土曜日に「こころのバリアフリー講演会」を実施しています。毎回、次はもっとよくしようとアイデア振り絞りながら取り組んでいるので、またご意見等あればお聞かせください。 |
| 4-12 | バリアフリーフェスで就労支援施設の製品を販売しているが、芸能のステージ発表などもあるとよい。楽器がやカラオケが得意な人もいるので、もう少し幅を広げていただきたい。 | 【市長】<br>毎年ある程度決まっている部分はありますが、例えば会場が市役所だけでなく、気軽に行けるような場所でもよいのではと感じました。発表会などの要素も加えられるのか研究していきます。<br>【担当課後日補足】<br>いただいたご意見を踏まえ、市内の障がい福祉サービス事業所などのつばめバリアフリーフェス参加団体とも協議しながら、イベントをさらに充実できるよう内容を検討していきます。 |

出張！ふれあいトーク質疑応答

開催日：2026年8月23日

団体名：日本車いすダンススポーツ連盟新潟県支部

| No. | 質問要旨 | 回答 |
|---|---|---|
| 4-13 | 昔の吉田町の社会福祉協議会が、吉田産業会館でボランティアまつりを開催していた。障がいだけでなく、もちつき大会などまつりみたいなイベントをやっていて、地域の団体が出ていて交流があった。今は予算の関係でなくなったようだが、復活してもらえないか。 | 【市長】<br>ボランティアまつりは公民館の祭典のように実施しようという話がありましたが、それがよいのか、バリアフリーフェスの別の形がよいのか、検討していきます。<br>【担当課後日補足】<br>社会福祉協議会によると、ボランティアまつりは段階的な統合を経て、令和7年度は「燕市ボランティア・市民活動交流フォーラム」として実施したとのことです。<br>また、令和8年度は3年に1度開催の「燕市社会福祉大会」を「燕市地域福祉推進フォーラム」として開催し、ボランティア・市民活動団体の取り組みを紹介します。<br>ボランティアまつりは、このように名称や内容を改めながら交流の場としての開催を続けているとのことです。 |
| 4-14 | 昨年から教育委員会がスポーツフェスタを吉田総合体育館で開催している。最初、うちの団体に話が来たが、途中からボッチャに変わってしまったようだ。いろいろな種目が体験できたり、広くみんなが入っていけるようにすると、もっと交流が持てるのでは。 | 【市長】<br>場所の都合もありますが、今年の状況を確認します。<br>【担当課後日補足】<br>令和7年度は15種目で実施しました。令和8年度は16種目で実施します。ユニバーサルスポーツとして昨年はボッチャ、モルック、R8はボッチャ、カーリンコンがあります。その他、アーチェリーなど車いすで体験できる種目もあります。 |
| 4-15 | 公園や施設をつくるときに、障がいのある人も利用者として設計段階からメンバーに入れてほしい。そうすれば健常者だけの考えでなく、障がいのある人の話も通りやすくなる。 | 【市長】<br>貴重なご意見ありがとうございます。今後の参考とさせていただきます。なお、8月にオープンした新しいB＆G海洋センターのプールは、全館バリアフリー対応です。ぜひご利用ください。 |
| 4-16 | 10年位前、新潟市に重度心身障がい者施設に勤務していたが、トイレの手すりなどが健常者の設計であった。障がい者が使いやすい設計をしてほしい。 | 【健康福祉部長】<br>公共施設を建てる際には、新潟県福祉のまちづくり条例に定める整備基準に準拠した設計を行ってきました。まだまだ不十分な部分はあるかもしれませんが、基本的には同条例に基づいた施設整備を進めています。 |
| 4-17 | 公園にある椅子がすべて同じ高さである。車いすの人でも座りやすいよう、低い椅子もあるとよい。椅子が高いと介助者も座らせることが難しい。今は障がい者も外に出ていく時代である。 | 【市長】<br>これから設置するものについては、できるのかどうか確認させてもらいます。公園は、都市公園を残すのかどうかという話もあるため、残していくにあたってその要素が必要かどうか検討していきます。 |

出張！ふれあいトーク質疑応答

開催日：2026年8月23日

団体名：日本車いすダンススポーツ連盟新潟県支部

| No. | 質問要旨 | 回答 |
|---|---|---|
| 4-18 | 障がい者の移動支援で、弥彦の自動運転バスを利用できないか。障がいのある人が地域に出るには送迎がネックになる。家族に頼んでも無理なときもあるし、福祉専門職に頼むとお金がかかるため厳しい。行政の補助やサービスは検討してもらえるのか。 | 【市長】<br>自動運転は現状、ほぼ検討していません。整備するのに運用面や費用面で相当高いハードルがあるためです。コスト面で考えると、既存のデマンド交通を基に考えていくことになります。移動支援の費用の支援については、どう捻出していくのか考えていきます。<br>【担当課後日補足】<br>障がい者総合支援法に基づき、屋外での移動が困難な障がいのある人に対し、ガイドヘルパーが付き添い外出の支援を行う「移動支援事業」を実施しています。利用料は世帯の収入状況に応じて上限額が定められており、住民税非課税世帯の方は利用者負担なし（無料）でご利用いただけます。加えて、障がいのある人の社会参加の促進および経済的負担の軽減を図るため、身体障がい者手帳（１～３級）または療育手帳を持っている障がいのある人に対し、「障害者タクシー利用券・自動車燃料費助成券」を交付し、タクシーの利用料金や自家用車の燃料費の一部を助成する事業を実施しています。 |
| 4-19 | 移動支援の件で、新潟県の介護福祉士会やホームヘルパー協議会へ要望や地域の意見を伝えたときに、「新潟県は専門のスキルを持っている人がいないので対応できません」いう返答があった。市としては、そういった専門職を育成するような研修や制度は考えているか。 | 【市長】<br>移動支援は受託できる事業者が少ないのが現状です。先進地域の事例を参考にしながら、移動支援専門部会などで引き続き研究していきます。<br>【担当課後日補足】<br>地域生活支援事業における移動支援の登録事業所は市内に3事業所とあります。障がいのある人のきめ細やかなニーズに対応できるよう、移動支援専門部会等で引き続き研究していく予定です。 |